
うたた寝

坂田火魯志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うたた寝

【Nコード】

N0891K

【作者名】

坂田火魯志

【あらすじ】

心地よい春の休日。二人は公園で寝ていてそのまま。ほのぼのとしたお話です。

第一章

うたた寝

心地よい春の休日。二人は楽しく公園の中を歩いていた。そこで男の方がだ。女に対して言ってきたのであった。

「ねえ」

「何？」

「少し休まない？」

「こう彼女に言ってきたのである。

「ちょっとね」

「休むの」

「ずっと歩いてきたじゃない」

「微笑みながら彼女に対して言う。

「今までずっとね」

「そういえばそうね」

「言われてそのまま頷く彼女だった。

「それじゃあ何処に」

「ベンチで休む？」

「静かにこう提案した彼だった。

「それじゃあ」

「ベンチでなのね」

「うん、少しね」

「休むのは少しだけだった。そのつもりだった。

「休もうよ。それからまた歩こう」

「そうね。少しね」

二人は近くにあるベンチに並んで座った。暫く話をしていた。

周りにあるのは緑だけである。人もおらずのどかな日差しの中でぽかぽかとしている。その中で静かにベンチに座っているとであった。

自然にである。うとうととしてしまい。まず男が気付いた。

「おっと」

寝てしまったのに気付いた。それで起きてみるとであった。

女はまだ寝ていた。彼にもたれかかってそのまま寝てしまっていた。眠りは深くそれを見た彼は起こそうとも思ったが止めたのであった。

「いいかな」

微笑んでまた目を閉じた。そのまま再び眠りに入る彼だった。起きた時はもう夕方だった。気付けば世界は赤くなっていた。女はその赤い世界に気付いてだ。困った様に言った。

「随分長く寝たみたいね」

「そうだね」

男は女の言葉に微笑んで返した。

「どうやらね」

「お昼だったのに」

しかし気付けばであった。夕方だったのである。赤い世界の中でだ。また話すのだった。

「気付いたら夜なんて」

「僕もだよ」

彼は少しだけ嘘をついた。

「ずっと寝てたよ」

「そうだったの」

「気付いたらこんな時間になってるなんてね」
その少しだけの嘘をさらに続けていく。

第二章

「どうしようかな、それで」

「それでって？」

「これからだけれど」

これからのことを話すのである。それをである。

「どうしようかな」

「帰る？」

そうしようかと提案するのだった。彼女に対して。

「もうね。帰ろうか」

「そうね」

女も微笑んで男に言葉を返した。

「それじゃあお家に帰って」

「そうしよう。それでね」

「晩御飯を食べてね」

「ええ、そうしましょう」

こう話をしてであった。席を立った。もう辺りは少し寒くなってきた。その寒さについても男の方から静かに言ってきたのであった。

「少し寒くなってきたしね」

「そうね。じゃあ後は」

「家で何か食べて温まろう」

彼の提案であった。

「それでいいよね」

「何がいいかしら」

話は夕食に移っていた。その温まる為のものにである。

「それで」

「そうだね。春だけれどね」

男は少しだけ考えてから。彼女のその問いに答えた。それは。

「すき焼きとかどうかな」

「すき焼き？」

「そう、すき焼き」

それを提案したのである。

「牛肉は少し高いかな」

「輸入肉なら安いわよ」

「そう。だったらそれを買ってね」

「お葱にお豆腐に麩に糸こんにゃくも」

男は笑いながら材料を話していく。

「あとはお醤油とお砂糖は」

「そっちはもう家にあるから」

「じゃあ材料だけでいいね」

「他にもよ」

女はまだあると言ってきた。

「あるわよ」

「他にもって？」

「卵よ。それ忘れたら駄目じゃない」

笑いながら卵も出すのだった。すき焼きには欠かせないものである。

「それもね」

「そうだね。じゃあ今日は」

「ええ、スーパーに寄ってからね」

「すき焼きにしよう」

「そうしよう」

笑顔で話をしてそのうえで公園を後にする二人だった。のどかで落ち着いた幸せの中でのやり取りだった。赤い世界が二人を照らしていた。

うたた寝

完

2
0
1
0
.
1
.
1
8

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0891k/>

うたた寝

2010年10月10日11時46分発行